

ほんとう へいあん
本当の平安

「神は われらの避け所 また力。
苦しむとき そこにある強き助け。
それゆえ われらは恐れぬ。」
(詩篇 46篇1,2節)



アメリカのとある町でのこと。その町の美術館では、毎年恒例の絵画展が開かれました。その年のテーマは「平安」です。そして、このテーマにふさわしい多くの作品が集まり、展示されました。最終日には審査員たちによって、受賞作品を決める投票が行われ、2つの絵が最後の審査に残りました。その一つは、静かな夜の湖の絵です。森の中の湖の上に月の光が反射して、波一つない鏡のような美しい湖です。しかし、最優秀作品に選ばれたのは、もう一つの方でした。そして多くの人がその受賞に驚いたのです。なぜなら、それは、嵐にさらされる岸壁の絵でした。暗雲立ち込める暗い空、天を切り裂く稲妻、海岸の岸壁に打ち付ける荒波。一見すると「平安」とはほど遠い作風です。しかし良く見ると、岸壁の中ほどの小さなくぼみに、鳥の巣が設けられていて、雛を抱えて風をやり過ごす母鳥の姿がありました。鳥たちにとって、そこは確かに最も安全な場所です。この絵には「嵐のただ中にある平安」という題が付けられていました。

わたし じんせい せいしょ つぎ
さて、私たちの人生はどのようなものでしょうか？ 聖書には次のよ
うにあります。

わたし よわい ななじゅうねん
「私たちの年齢は七十年。
すこ はちじゅうねん
健やかであっても八十年。

そのほとんどは労苦とわざわいです。」
し へん べん せつ
(詩篇90篇10節)



ひと め み
「人の目にはまっすぐに見えるが、
お し みち
その終わりが死となる道がある。」
しんげん しょう せつ
(箴言14章12節)

にんげん いちど し しご う さだ
「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まって
いる…」
じん てがみ しょう せつ
(ヘブル人への手紙9章27節)

ろうく し わたし じんせい あらし なか
労苦とわざわい、死とさばき…私たちの人生は、まさに嵐の中を
とお わたし ひつよう へいあん たん
通っていくようなものです。ですから、私たちに必要な平安は、単
おだ あらし なか あんしん
る穏やかさではなく、嵐のただ中にある、安心していただけるもの
でなければならぬのです。

へんあん て い
では、どうすればこの「平安」を手に入れることができるのでし
うか？ それは神の与えてくださる救いを受け入れることです。イエス・
すく めし しん う い かみ た かえ かみ
キリストを救い主として信じ受け入れてまことの神に立ち返り、神から
つみ ゆる えいえん え
罪の赦しと永遠のいのちを得ることです。

せ かい わたし にんげん そうぞうしゅ かみ つく
この世界も、私たち人間も、創造主である神によって造られました。
にんげん かみ あい たいしょう とおと もくてき つく
しかも人間は「神の愛の対象」という尊い目的で造られたのです。
さいしょ にんげん かみ けいこく さか つみ おか
しかし、最初の人間であるアダムが神の警告に逆らって罪を犯した
ため、その子孫である私たちも神に逆らう性質(=罪)を持って生
もの かみ かんしゃ にんげん かって つく
きる者となりました。そのため、神への感謝もなく、人間が勝手に作
だ にせもの かみ め さき のぞ ねが いか あらそ かいらく
り出した偽物の神に目先の望みを願い、うそ、怒り、争い、快樂、
ぼうりよく おお あく おこな い
暴力など多くの悪を行って生きています。

それでも、^{ろうく}労苦は絶えず、しかも死ぬ^し時^{とき}にはこの世^よで得^えた^{すべ}全てのものを手放^{てばな}して死^しななければなりません。そして死後^{しご}には、きよく正^{ただ}しい神^{かみ}から、自分^{じぶん}が犯^{おか}した^{すべ}全ての罪^{つみ}に対する刑罰^{たいけいばつ}を受けて、地獄^{じごく}で永遠^{えいえん}に苦^{くる}しみ続^{つづ}けなければならぬのです。これが、私^{わたし}たちの人生^{じんせい}が嵐^{あらし}のようになっ^{げんいん}てしまっ^{けつ}た原因^{げんいん}と結果^{けつ}です。



神^{かみ}は、このような人間^{にんげん}を、その罪^{つみ}深^{ふか}さ以上^{いじょう}の深^{ふか}い愛^{あい}で愛^{あい}してくださ^{さい}り、救^{すく}いを与^{あた}えてくださ^{さい}いました。最愛^{さいあい}の御子^{みこ}イエス・キリストをこの世^よに遣^{つか}わされたのです。



イエス・キリストは、^{みな}皆^{みな}さまのすべ^{つみ}ての罪^せを背^お負^おって十^{じゅう}字^じ架^かにかかり、^{みな}皆^{みな}さまが受^うけるべき罪^{つみ}の刑罰^{けいばつ}を身代^みわり^がに受^うけて死^しんで下^{くだ}さいました。そして、死^し後^ご三^{みつ}日^か目^めには死^しを打^うち破^{やぶ}つ

てよみがえられたのです。

ですから誰^{だれ}でもイエス・キリストを信^{しん}じるなら、罪^{つみ}がすべ^{ゆる}て赦^{ゆる}されて、死^し後^ごの刑罰^{けいばつ}から救^{すく}われます。死^し後^ご、地獄^{じごく}ではなく永遠^{えいえん}の天^{てん}国^{こく}に行^いくことがで^すきるのです。この救^{すく}いが与^{あた}えられたなら、死^しの恐^{きょう}怖^ふに打^うち勝^かつ平^{へい}安^{あん}を持^もつことがで^すきます。さらに、神^{かみ}に立^たち返^{かえ}ったことによ^よって、神^{かみ}の御^み守^{まも}りの内^{うち}に歩^{あゆ}むとい^ゆう揺^ゆるがな^い平^{へい}安^{あん}を持^もって生^いきるこ^とがで^すきるのです。

ぜひ、^{みな}皆^{みな}さまもイエス・キリストを^{しん}信^{しん}じて神^{かみ}に立^たち返^{かえ}られ、救^{すく}いに与^{あず}かり、人生^{じんせい}の嵐^{あらし}の中^{なか}でも揺^ゆるがな^い本^{ほん}当^{とう}の^{へい}平^{へい}安^{あん}を得^えてください。

